

グループホーム まごころ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		開設時に職員全員で意見を出し合って作った。「利用者本位・寄り添う介護・地域との連携」などの思いや意見を「優しい心を大切にし温かい家族になります。」「穏やかでゆったりとした日々を共に歩みます。」と言う理念にこめている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職員全員が理念を共有し「家族になる」という言葉を忘れず入居者にかかわっている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の行事などに参加したり散歩は行うが、理念の浸透にむけた取り組みまでは、いたっていない。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣公園等に散歩の際、挨拶をかわしたり、言葉をかけていただいている。去年は茹でた栗などを頂いた。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		長畑区のいきいきサロンでの催しがある際声を掛けていただき、状況に応じて参加している。

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない。勤務の状態に余裕がなく取り組みまでにはたっていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員に記入、提出してもらった。できあがった外部評価と合わせて、ミーティングの際に職員全員で話合っている。その中で良い点、悪い点を把握し、全員で改善策を考えている。		昨年同様、評価内容を、反省向上の糧としたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際貴重な、ご意見アドバイスを頂いている。会議後、誕生会の茶話会に参加していただいたこともある。		評価内容の報告をし、意見等を取り入れていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度に関して判断に困った時は相談できる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部・外部研修により学ぶ機会を持っている。必要な方への支援の実例はまだない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設している老人保健施設と合同の勉強会で、1月に外部講師により虐待防止法について学んだ。学んだことを全員が理解するよう働きかけ、利用者に対して注意を払っている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	理解・納得をして頂けるよう、丁寧な説明をしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	職員に直接お話ししていただいている。文書で受け取るようにしていない。苦情相談窓口については、重要事項説明に入れている。		意見箱を設置した方がよいか、検討中である。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月キーパーソンの家族に、日々の暮らしぶり、体重・体温・血圧などを記した手紙をお渡ししている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	文書で受け取る手段はできていない。苦情相談窓口については重要事項に入れている。		意見箱を設置した方がよいか、検討していきたい。意見が出た際は、改善に向け、職員の話し合いを行っていく。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に1回全員ミーティングを行うようにしている。以前より、意見を述べるようになった。		利用者の見守りをしながらのミーティングになるので、安全面に気をつけながら、効率のよい会議を行っていきたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	要望には極力柔軟な対応をしている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	7人の介護職員のうち6人が1年毎の契約社員である。離職による利用者のダメージが懸念される。		職員の早期補充、スムーズな引継ぎをおこない、利用者へのダメージを最小限にふせぐ。

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>法人代表者と管理者が合同で面接し理念にそった介護が出来る方を採用している。7人の介護職員のうち6人が1年ごとの契約社員(原則継続をおこなう)である。職員のスキルアップ研修は行っている。</p>		<p>職員が定着できるような働きやすい条件や環境の検討を運営者、管理者が行っていく。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修等に参加している。</p>		
21	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>併設している、老人保健施設での勉強会に参加している。(2ヶ月に1回)</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>京築地区のグループホーム連絡協議会に、管理者ができるだけ出席するようにしている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>できていない。休憩時間、休憩場所の確保を考えているが、予算等の都合上、4月以降になりそうである。</p>		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力は認めているが、各自が向上心を持って働けるような工夫や努力がたりない。		運営者に職員の仕事振りを見てもらう機会をもつ。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族とお話する機会はあるが、本人自身からよく聴く機会は少ない。		ご本人と話す機会を増やす。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に何度かお話を出来ている方もいるが、殆どの場合一度見学に来られ、その際入居の申し込みをされる。その際、いろいろなことを良く聴き受け止める努力をしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じた対応支援ができるよう、在宅介護支援センターのケアマネージャーとの連絡を継続している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際はホームに早くなじめるよう、言葉かけや対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに過ごす家族である、という気持ちは常にもっている。会話の中で、風習や言い伝えなど、教えていただくようにしている。		

グループホーム まごころ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会には、ご家族に声をかけ招待している。夕食時毎日食事介助にきてくださる家族もおられる。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時には、利用者の様子などを伝えている。リビングでお話したり、居室で水入らずの時間を過ごしていただいたりしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できていない。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良好な関係が築けるよう努力しているが、小さなトラブルはときどき起こっている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方と併設老人保健施設のお祭の際、一緒に食事をした。利用者も喜んでいるのでこれからも、継続して行きたいと思う。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	草取りの好きな方、カラオケの好きな方など希望の分かる方には対応している。希望や意向については気がついた職員が記録したり申し送ったりしている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と話す以外にも、家族や担当のケアマネジャー在宅サービス事、医療ソーシャルワーカー、在宅支援センター等が入居前にかかわりのあった人や、事業所等と連絡相談し、得た情報を基に管理者がフェースシートを作成し職員へ周知徹底を図っている。		
37	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(36)の内容に加えて、主治医の診断書または診療情報提供書を、参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの意見や、アイデアを反映した介護計画作成にいたっていない。		本人、家族、職員と介護計画について話し合う機会をもてるようにしていきたい。センター方式のアセスメントツールをとりいれたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じたアセスメントができていない。		定期的なアセスメント、現状に応じた介護計画を作成していきたい
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の申しおくり、記録はあるが、ケアの実践、結果、気づき見直しにまで至っていない。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎、同行など状況に応じておこなっている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域担当の民生委員さんが地域行事の声をかけてくださっている。前任者在職の際は、ボランティアの受け入れをしていたが、現在は途絶えている。		状況に応じてボランティアの方にもかかわっていただけるよう働きかけていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じておこなっていくつもりである。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの社会福祉士の方に運営推進会議の委員をしていただいている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、本人・家族の希望する医療機関を利用している。必要であれば、受診の送迎や付き添いもおこなっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力機関が数箇所ある。かかりつけの個人病院Drが相談や往診等協力してくださっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師が必要に応じ相談協力してくれている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	必要に応じておこなっている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	ホームに看護職員がおらず、入浴設備等身体的に重度のかたの対応になっていないため、終末期までの支援体制はとっていないことを、入居時ご家族に説明している。		これから、家族やかかりつけ医と行っていかなければいけないと考えている。
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	ホームに看護職員がおらず、入浴設備等身体的に重度のかたの対応になっていないため、終末期までの支援体制はとっていないことを、入居時ご家族に説明している。		家族との対話、かかりつけ医との相談を増やしていきたい。
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	十分な話し合い情報交換をおこなっている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人記録は施錠できる場所に保管している。言葉賭けについては「さん」づけで呼んでいるが、苗字に反応しない方は馴染みの呼び名で呼ぶこともある。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	食事やティータイムをともにし会話をするきっかけをもうけているが、最近は食事介助をする方が多く、会話が減っている。		本人の思いや希望が話しやすいタイミング、状況を見つけ機会をつくっていきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れに沿った生活を、していただいていることが多い。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在は、併設老人保健施設にくる理容サービスを利用している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みについては、入居前に必ず尋ねている。季節に応じて会話の中で、食べたいものを聞いて、献立に反映している。テーブル、トレーふき、もやしの根とりなどは手伝っていただいている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこはとりいれていない。おやつや、飲み物は、いろいろと希望を聞いている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表に記入、チェックし排泄パターンの把握に努めている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できていない。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は自由にさせていただいている。朝は、朝食前までに、全員起きておられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケのお好きな方がおられ、昨年は、併設のデイケアのカラオケ大会に参加し1等をいただいた。カレンダー作りはかならず、利用者の方に手伝っていただいている。オセロや、トランプ、ことわざカルタゲームなどをおこなって、気分転換をはかっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人がお金を使う機会はほとんどない。初詣に出かけた際、お賽銭をそれぞれで、あげていただいた。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩に行く機会をつくっている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員で出かける機会を月に1回設けている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話などをかけていただくこともある。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室ですごされたり、リビングでお話をされたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の出入り口の扉に鍵はついていない。昨年7月より、出て行く恐れのあるかたが入居してからは、玄関は施錠している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間、居室に入るときは声をかけるかロックをする。ほとんどの時間をリビングで過ごされる方が多い。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや、薬品などは鍵のかかる場所もしくは目につかない場所に保管管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開設時、転倒、窒息、誤飲、誤嚥等については研修をおこなった。離園の危険性のあるかたは社会福祉協議会が窓口の「徘徊SOSネットワーク」に登録し、警察ほかさまざまな協力者へ連絡が回るようにしている。		職員の入れ替わりもあったので、継続的な研修が必要である。

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は開設時おこなっている。定期的な訓練をおこなっていない。		定期的な訓練をおこなうようにしたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間火災想定訓練はおこなった。近隣への働きかけはおこなっていない。災害時の備蓄品は、併設老人保健施設で管理している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に起こりうるリスクについて説明している。入居後も身体及び精神状態等の変化について、連絡相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気づいたことは、必ず報告し、申し送りや、申し送りノートでその日いない職員へも伝わるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はできている。職員3名の薬係により、薬切れの確認、配布チェックをおこなっている。症状の変化には、全員が気を配っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝体操をしているが、体を動かすににくい利用者がふえている。食事は、乳製品等、便秘予防食品を取り入れるようにしている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。自分でできない方、不十分な方へのフォローもチェック表にて確認している。義歯の方は、毎晩義歯洗浄液につけている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量のチェックをしている。飲み込みが悪く、水分量の少ない方は、特に気をつけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いは利用者職員共心がけている。利用者タオルは、原則個別にしている。共用タオルは、一日最低3回は交換している。感染症に対する予防や対応は、資料により確認している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、鍋などは、使用のたびに乾燥機で十分乾燥させている。まな板、包丁、ふきんなどは一日1回熱湯と次亜塩素酸ナトリウム希釈液で除菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	春、夏、秋は、玄関先に花などを植えて、温かい家庭の雰囲気を作っている。冬場は、玄関先も裏の畑も、お休みしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングの南と西に窓があり、西日にはカーテンで調節している。窓の外には、季節の鳥や、虫の声も聞こえ会話も弾むことが多い。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の一人になれる場所は、少ない。玄関前のベンチや、廊下のソファーぐらいである。ほとんどの方が、リビングで過ごしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具は、馴染みの物を持ってきていただくようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムになっている。朝の掃除の際、日中、一日何回か窓を開け外気を取り入れるようにしている。夜間時、室温は本人の体調、好みに考慮して、夜勤職員が調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく手すりをつけている。各室とトイレの出入り口を直線の廊下沿いに設け、ダイニングから見通せ、遠くからでも見守りできるつくりになっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは「便所」と大きく張り紙をしている。居室は各室名前をフルネームで記載している。		
89	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏場は、菜園で、野菜づくり(草取り・水やり)などを、おこなっていただいている。散歩の際、併設老健や、デイサービスの庭などの散歩を行うこともある。		

グループホ - ム まごころ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム まごころ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者お一人お一人に対して家族のような、思いやりを持って対応しています。笑顔で毎日を送ることができるよう、挨拶や声かけを元気に行っています。